

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2024-3006	利用形態	内部研究	利用する 試料・情報	東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査のうち、2014年度から2019年度に実施された脳と心の健康調査に参加した約12000人の成人を対象とした下記データ。 1. MRI画像解析値(3D-T1WI、DTI、MRA、ASL、FLAIR) 2. 基本情報(性別、年齢、教育歴、既往歴、抑うつ症状、不眠症状、メンタルヘルス、飲酒習慣、喫煙習慣、運動習慣、社会的孤立、ソーシャルキャピタル、就労状況、収入、婚姻状況、同居人数、認知機能検査値、東日本大震災における被災経験[家屋被災の程度、震災による家族の死の経験の有無、転居回数、居住状況]) 3. 検体検査データ(血液・尿検査値) 4. 特定健康診査情報(身長、体重、BMI、血圧、問診)	
主たる研究機関	岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座/いわて東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	-	
研究題目	東日本大震災の被災経験が社会的孤立と脳形態に及ぼす影響の検討			研究期間	研究実施許可日～ 2028年3月31日	
実施責任者	事崎由佳	所属	岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座/ いわて東北メディカル・メガバンク機構		職位	講師
研究目的と意義	本研究では、東日本大震災被災地域の地域住民を対象とした既存の大規模コホートデータを用いて、性・年齢別による過去の被災経験が社会的孤立と脳形態に及ぼす影響を解明する。 一般住民を対象とした大規模データを用いた社会的孤立と脳形態との関連については知見が限られている。脳血管構造や脳血流への影響の報告はこれまでにない。また、大規模自然災害での被災経験が社会的孤立と脳形態にどのような影響を与えているのかについてはほとんど明らかになっていない。さらに、社会的孤立と脳形態との関連を媒介する変数として社会経済状況(SES)を考慮した検討されていない。 過去の被災体験が及ぼす社会的孤立による脳形態学的変化を明らかにすることで、社会的に孤立すると健康影響がなぜ出現するのか、潜在的な社会的孤立のリスクとなりうる過去の被災経験が社会的孤立にどのように影響し、脳へどのような影響を及ぼしているのかについて、その生物学的メカニズムを解明できる可能性がある。本研究課題と同様の研究は国内外ともこれまでに存在せず、世界で初めての研究である。					
研究計画概要	本研究は、東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査のうち、2014年度から2019年度に実施された脳と心の健康調査に参加した約12,000人の成人を対象としたデータを使用し、性・年齢別での過去の被災経験が社会的孤立と脳形態に及ぼす影響について検討する。 解析の第1段階としては、社会的孤立と脳形態の関連解析を行い、被災経験の影響についても併せて検討する。 第2段階として、教育歴などSESの媒介効果に起因する割合を算出するため、媒介分析を用いて検討する。					
期待される成果	過去の被災体験が及ぼす社会的孤立による脳形態学的変化を明らかにすることで、社会的に孤立すると健康影響がなぜ出現するのか、潜在的な社会的孤立のリスクとなりうる過去の被災経験が社会的孤立にどのように影響し、脳へどのような影響を及ぼしているのかについて、その生物学的メカニズムを解明できる可能性がある。					
これまでの倫理 審査等の経過	2024年7月 岩手医科大学医学部倫理審査委員会承認(研究実施許可日2024年7月22日)					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	岩手医科大学のセキュリティポリシーを順守する。機微性の高い個人識別符号(個人の配列情報など)は東北大学東北メディカル・メガバンク機構のスーパーコンピュータまたはセキュリティ管理可能な外部記憶装置内で他の情報端末と物理的に遮断された状態で保管される。					
その他特記事項	該当なし					
(事務局使用欄) *公開日 2024年7月24日						